

「農業と環境」

農業体験を基盤にした教育

「農業と環境」の科目目標は、「農業生物の育成について体験的、探求的な学習を通して、農業に関する基礎的な知識と技術を習得して、農業及び農業学習と環境についての興味・関心をたかめるとともに、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野の発展を図る能力と態度を育てる」ことです。

本校では、1年生の福祉系列以外の生徒が科目「農業と環境」を履修し、稲作栽培を種まきから苗作り、収穫までと約半年間かけて体験します。2.3haの広大な農場で体験する稲作実習は、植物に対する思いやりを育み、勤労意欲、農業や食糧の大切さ、自然の恵みや生命の尊さなど、現代人が忘れかけている自然に感謝する気持ちを養い、社会生活に対応できる人づくりを行っています。稲作栽培の他にも野菜や草花の栽培にも取り組んでいます。

更に、農業と環境のまとめの位置づけとして、自分たちが栽培したお米とダイコン・ハクサイ等の野菜は、各自持ち帰ります。家庭で、家族とともに頂くことで、一段と植物という「生命（いのち）」を育てているということを実感するようです。自らが栽培したものを食べるという貴重な経験は、本校でしか出来ない『食育体験』となっています。

月	主な実習内容
4月	・オリエンテーション ・サルビア・マリーゴールドの種まき実習
5月	・サルビア・マリーゴールドの鉢上げ実習 ・イネの種まき実習
6月	・イネの育苗実習 ・田植え実習（終日）
7月	・草花寄せ植えアレンジ実習
8月	・竹松農場管理実習 （イネ生育調査・除草）
9月	・ハクサイ定植実習 ・ダイコン種まき実習
10月	・イネ刈り実習（終日） ・ダイコン間引き実習
11月	・ダイコン収穫実習 ・ハクサイ収穫実習 ・城南祭販売に向けて準備
12月	・農業実習のまとめ



図-1 種籾の播種



図-2 ハクサイの収穫

また、今年は6回目の田んぼアートにも取り組みました。田植えと稲刈りは園児と一緒にいきますが、田んぼアートは細かい部分もあるため、全て「手植え」していきます。手植え

直後は、どんな絵が描かれているかはっきりしませんが、8月下旬からヒノヒカリをバックに緑米で描かれた「V・VAREN」のロゴと「びびくん」の絵、そして「サッカーボール」が徐々に見え始め、10月の稲刈りの時にはくっきりと浮かび上がりました。土日に開催した鑑賞会には1,542名の来場があり、過去最高の入場者となりました。

最後に、私たちが栽培した米は、「平成25年度産米全国農業高校お米甲子園で特別優秀賞」を受賞することができました。本校竹松農場（水田）における多くの諸先輩方の努力の積み重ねがあつての結果です。今後もこの伝統を受け継いでいきます。



図-3 田植え実習（機械植え）



図-4 田植え実習（手植え）



図-5 実習前、田んぼへ挨拶



図-6 稲刈り実習（手刈り）



図-7 稲刈り実習（運搬）



図-8 稲刈り実習（脱穀）